

CLOSE UP クローズアップ

幼い頃から読書が大好きだった小松先生は、好きな探偵小説を題材に、欧米と日本の文化や風俗の違いについて研究されています。時代の変遷とともに変わる日本を知り、学生達に「生きる力」を身につけてもらいたいと教育と研究に打ち込む日々を送っていらっしゃいます。



■ 金城学院大学 文学部 日本語日本文化学科

小松史生子 准教授

■ 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士後期課程修了。修士(文学)
研究課題は近代文学の成立に観られる<通俗>の記号体系の分析。メディアテキスト研究

探偵小説・推理小説を題材に 各国の文化の違いを研究

私が教える日本文化コースでは日本文学からさらに視野を広げ、伝統や文化のルーツを探りながら日本人がどう変わってきたかを学び、世界の中における日本という国を知ることをテーマにさまざまな演習を行っています。また私自身は欧米文化を取り入れ始めた近代以降に誕生した文学ジャンルである探偵小説を題材に、欧米と日本の政治や宗教、風土の違いなどを研究しています。

なぜ探偵小説を題材にするかといいますと、もともと私は大の本好き、中でも探偵小説が好きだからです。子どもの頃最初に出会った本は「アルセーヌ・ルパンシリーズ」。スリリングな内容もさることながら、外国文学への憧れもあり夢中になって読みました。また「江戸川乱歩少年探偵団シリーズ」もよく読んだ本のひとつ。大学の卒論のテーマも江戸川乱歩でした。

そもそも探偵小説は、法治国家や民主主義の発達にともなって生まれた文学ジャンルです。独裁主義の下では正義は1つであり、そこには事件に対する推理や探偵は存在しません。犯人探しをしながら各国の法の違いや政治的基盤、宗教の違い、すなわち各時代の背景や文化の違いが見えてきます。例えばホラー小説ひとつをとっても、ヨーロッパではドラキュラやフランケンシュタインといった怪物^{モンスター}が、日本ではそれとはまた異なる妖怪や幽霊の話が多く見られます。同じホラーでも各国の気候風土や宗教の違いによって内容が違ふ、そこを突き詰めていくとさまざまな歴史的背景や文化の違いが見えて面白いのです。

また小説はメディアミックスされることによって、原作とは異なる時代背景も反映されます。例えば岡山の大量殺人をテーマにした横溝正史の「八ツ墓村」は何度か映画化されていますが、映画では伯備線に乗って村へ行くシーンが印象的に登場します。この頃日本では国鉄(現:JR)がディスカバージャパンという観光キャンペーンを行っており、その時代背景が作品に反

映されているのです。

流行歌や地方都市の研究から 学生にも面白さを伝えたい

こうした違いの面白さを学生の皆さんにも理解してもらいたいと思い、現在は昭和という激動の時代を流行歌という側面から見直し、大衆の感情が歴史の背景にいかにか作用、あるいは被作用してきたのかについて考える授業も行っています。例えば1929年のヒット曲、「東京行進曲」はモボ・モガが行き交う昭和初期の銀座の風景が唄われています。おしゃれな服装に身を包み、華やかな銀座を闊歩してみたい。そんな大衆の憧れを代弁した内容に昭和初期という時代背景やそこに生きる人々の気持ちが込められています。また歌謡曲の流行は10年ごとに変わるといわれますが、先の見えない不況の時代には日本が元気だった'70～'80年代の頃の歌が流行する傾向にあります。これも大衆の気持ちをそのまま反映している現象でしょう。さらに'70～'80年代にヒットしたテレビのサスペンスドラマも、夜、家族と一緒にお茶の間でテレビを見る機会が少なくなったという、人々の生活スタイルの多様化とともに姿を消しました。この

ように歌謡曲やドラマからその時代の文化や背景を知ることが学生達にとっても興味深い学習であると思います。

今年の演習でとりあげた都市論では、日本の地方都市がそれぞれの文化や時代の動向とどう関わりながら形成されてきたかをグループに分かれて学んでいます。例えば宗教ひとつとっても、キリスト教が広く布教されている北海道と、仏教の影響の強い京都では、その歴史や文化、風俗に違いがみられます。こうしたことを最初は文献から、時には自分たちの足を使って学ぶフィールドワークを積極的に行いながら、日本という国そのものや文化をさらに深く知り、批評精神の目を養うことを目的としてテーマに臨んでいます。

私はこうした研究を通して文化のメカニズムを知ること、学生の皆さんに「生きる力」を身につけてほしいと願っています。巷にはさまざまな情報があふれ、社会も生活も多様化してきた現代は生きていくのが難しい時代であると思います。そのような状況の中でもどのように生きていくかを見極め、大学で学んだ知識をもとにして正しい選択をして生きていく力を持つ人になってほしいと思います。



小松先生個人所有の推理小説月刊誌。文芸春秋創刊号もきれいな状態で保存され、当時の出版文化のありようを知ることができる

小松先生はどんな人!?



日本語日本文化学科 河井紀子さん

小松先生はとてもマルチな先生です。先生のゼミは人気があり、約20人もの学生が卒論の指導を受けていますが、1人1人テーマが違うのに先生はそれぞれに的確な指導をしてくださいます。また推理小説など、先生の研究分野のお話はとても奥が深く面白いです。おしゃれで女性らしい雰囲気も、同性として憧れています。

文化のメカニズムを知り
生きる力を身につけた人へ